

EU Indicators

欧州経済指標コメント：7-9月期英国GDP（改定値）

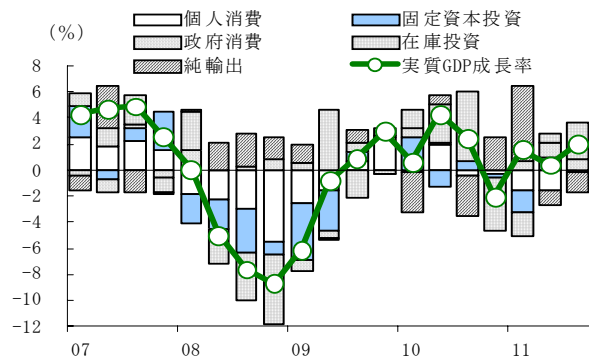
発表日：2011年11月25日（金）

～景気回復の持続性に不安を覚える需要ミックス～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

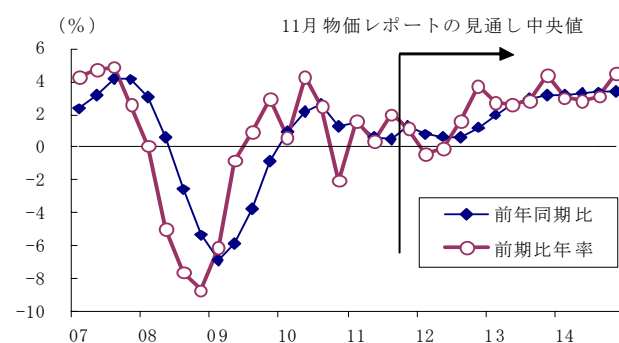
- 7-9月期の英国の実質GDP成長率の改定値は前期比+0.5%（同年率+2.0%）と速報段階から不変。特殊要因で下振れした前期（同+0.1%、同年率+0.4%）から成長率が加速した。
- 新たに公表された需要項目別の内訳は、政府消費と在庫投資が成長を牽引（左図・表）。財政緊縮下で政府消費の一段の景気牽引は期待できないうえ、在庫積み増しは東日本大震災後のサプライチェーン復旧の動きを反映したもので一時的。ロンドン五輪チケットの販売開始（GDP統計上の消費に計上されるのは2012年7-9月期、チケット購入による家計の所得制約と代替品の消費抑制）で前期が下振れしたにもかかわらず、個人消費が横這い圏で低迷。ロイヤル・ウェディングによる祝日の増加と東日本大震災による部品供給の寸断で前期が下押しされたにもかかわらず、企業設備投資や輸出が減少。こうした需要コンポーネント毎の動きは、先行きの景気回復の持続性に不安を覚える内容。
- 10月の製造業PMI指数は47.4と業況判断の分岐点である50割れ、サービス業PMI指数は51.3と分岐点を上回っているものの、7-9月期平均の53.1から改善ピッチが鈍化。23日に発表された11月9・10日のBOE政策委員会の議事録でも、ユーロ圏の債務危機の余波を受け、英国景気の先行きが極めて不透明であると指摘。11月物価レポートでの政策委員の見通し中央値は、2012年前半にかけての景気弱含みを予想（右図）。年明け以降に一段の量的緩和に踏み出す公算が大きい。

■英国：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：英国連邦統計局

■英国：BOE政策委員会の実質GDP成長率見通し



注：前期比年率は見通し中央値の前年同率比からの概算値。
出所：英国連邦統計局、BOE

■英国GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
10/1-3月期	6.1	0.6	(3.7)	▲ 0.2	2.6	18.2	(1.4)	(▲ 3.1)	▲ 1.1	9.6
10/4-6月期	6.1	4.3	(3.6)	3.0	1.2	▲ 8.0	(2.9)	(0.7)	15.6	11.8
10/7-9月期	4.6	2.5	(5.5)	▲ 0.6	▲ 0.2	4.3	(5.4)	(▲ 3.0)	0.7	11.0
10/10-12月期	1.6	▲ 2.0	(▲ 4.4)	▲ 0.4	0.3	▲ 2.0	(▲ 4.1)	(2.4)	16.5	6.8
11/1-3月期	3.6	1.6	(▲ 4.2)	▲ 2.5	3.2	▲ 10.6	(▲ 1.8)	(5.8)	6.2	▲ 11.3
11/4-6月期	2.2	0.4	(1.6)	▲ 2.4	4.6	6.9	(0.8)	(▲ 1.2)	▲ 5.2	▲ 1.3
11/7-9月期	6.0	2.0	(3.6)	▲ 0.1	3.6	▲ 0.7	(2.8)	(▲ 1.6)	▲ 4.0	1.2

出所：英国連邦統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。